

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 1 日現在

機関番号：12606

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2013

課題番号：22520095

研究課題名(和文) ティントレット派素描のカタログ化：英国外に所蔵される作品総目録の作成

研究課題名(英文) Drawings by the School of Tintoretto: A Catalogue of the Works in the Collections outside Great Britain

研究代表者

越川 倫明 (KOSHIKAWA, Michiaki)

東京藝術大学・美術学部・教授

研究者番号：60178259

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円、(間接経費) 810,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、16世紀にヴェネツィアで活躍した画家ヤコポ・ティントレット(1519-1594)およびその工房を対象に、現在知られている全素描作品をカタログ化する計画の一部として、英国外に所蔵される作品をデータベース化することを意図した。成果として、英国外の諸コレクションに所蔵される333点のデータを整理し、一元的なチェックリストを作成することができた。また、関連するいくつかの作品について、作者同定および制作年代に関する新しい知見を論文のかたちで発表した。

研究成果の概要(英文)：The present research is a part of my project that aims the revision of the catalogue of all the known drawings by the Venetian painter Jacopo Tintoretto (1519-1594) and his school. Its scope is limited to the works in the collections outside Great Britain. As a result, I could make the updated check-list of 333 works. In relation to this, I could publish a series of articles proposing newly revised attributions and dating for several drawings.

研究分野：西洋美術史

科研費の分科・細目：哲学 美学・美術史

キーワード：美術史 イタリア ヴェネツィア派 素描 ルネサンス ティントレット

1. 研究開始当初の背景

過去の研究史において、ティントレットおよびティントレット派素描のカタログ化の試みはふたつあった。第一に、ハンス・ティーツェとエリカ・ティーツェ=コンラートによる『ヴェネツィア画家の素描』(1944)、第二に、パオラ・ロッシによる『ヤコポ・ティントレットの素描』(1975)である。前者はティントレット派全体を扱った唯一の基礎研究であるが、刊行からすでに60年以上を経て根本的な改訂を必要としていた。後者はより新しい情報に基づく著作であるが、対象作品は著者がヤコポ・ティントレットの真筆と判断したものに限定されていた。従って、最新の研究状況に基づくティントレット派全般を対象とした一元的なカタログは存在しない。筆者は平成18~20年度の科学研究費補助金によって、英国内に所蔵されるティントレット派素描のカタログ化を試みた。今回の研究計画は、それに続くものとして計画された。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ティントレット派による現存素描作品を網羅した総目録を作成することを最終的な目標とし、今回の研究課題においては英国外の諸コレクションに所蔵される素描をカタログ化することを目的とした。現在知られるティントレット派素描は470点前後の数にのぼり、そのうち3分の2程度が英国外の欧米各地のコレクションに属している。なかでも最も重要なコレクションは、約120点を擁するフィレンツェのウフィツィ美術館のコレクションである。本研究は、これら英国外に所蔵される作品について可能な限り実見調査を行ない、作者推定と年代推定の検討を経て、一元的なカタログを実際に作成するものである。

3. 研究の方法

本研究は素描作品のカタログ化を目指すものであるため、基本的研究方法は概略以下の手順で行なわれた。カタログ作成の基本的フォーマットは、平成18~20年度に作成したデータベース・ソフトによるフォーマットをそのまま用いた。

- (1) 作品写真、あるいはデジタル画像の収集
- (2) 関連データ、特に文献データの把握と収集
- (3) 実見調査および質的・技法的検討
- (4) 関連作品および年代推定に関する検討
- (5) カタログ項目の入力(文字データおよび画像データ)

カタログのデータは国際的通用性を考慮してすべて英文で入力することとし、関連する

論文もできるかぎり英文で公刊することとした。

4. 研究成果

(1) 基本的成果(カタログの作成)

本研究により、現在英国外の諸コレクションに所蔵される計333点のティントレット派素描がデータベースとしてカタログ化され、そのうち多くについては画像も入力できた。対象のコレクションは、ウィーン、アルベルティーナ版画素描館、パリ、ルーヴル美術館素描室、フィレンツェ、ウフィツィ美術館素描版画室、ローマ国立版画素描館、ナポリ、カポディモンテ国立美術館、アムステルダム国立美術館、ロッテルダム、ポイマンズ美術館、ブダペスト美術館、サンクト・ペテルブルク、エルミタージュ美術館、ストックホルム国立美術館、ケンブリッジ、フォッグ美術館などの所蔵作品である。これにより、これまで部分的に文献に言及されてきた作品が、初めて画像とともに一元的に参照可能となった。また、展覧会カタログや所蔵品カタログのなかで部分的に公刊された情報を集約することにより、1944年のティーツェ夫妻のカタログ(『ヴェネツィア画家の素描』)以降、各作品に対してなされてきた評価の変化の状況も把握することができた。その結果、特にウフィツィ美術館に所蔵される中核的な作品グループを中心に、ティーツェ夫妻のカタログをはじめとする先行研究において不適切あるいは不合理な判断と考えられる部分が明確化されることとなった。こうした結果は、研究期間のあいだに順次英文の論文として公刊した(下記の(2)の項目参照)。

(2) 個別の新知見に関する論文

上記のように、カタログ作成および実見調査の過程で、過去の研究において、誤った判断やあいまいな判断が与えられてきた多くの作品について、新しい知見をもたらすことができた。ティントレット派素描に関する研究上の問題点としては、ヤコポ・ティントレットの真筆作品と工房作品(特に息子のドメニコ・ティントレットの作品)を区別する判断基準について、および、ドメニコ・ティントレットの素描作品の編年的な判断基準の未確立の点に、もっとも主要な課題があると考えられる。これらの点に注目しつつ、以下のような個別の知見を発表した。

1 ティントレット工房で繰り返し描かれた小型の彫刻モデルのうち、「アトラス像」と呼ばれる一群の素描について検討し、そのモデルが現在ロンドンのヴィクトリア・アンド・アルバート美術館に所蔵される小型の彫像であることをつきとめ、英文論文『ティントレット派による「アトラス」の素描』(下記論文の4番)を公刊した。この論文のなかでは、ティントレット派素描の重要なグルー

ブをなす彫刻作品に基づく習作群が、1540年代半ばのパドヴァの文化的環境に起源がある可能性を提示した。

2 ウフィツィ美術館における実見調査をもとに、過去の研究においてヤコポ・ティントレットの真筆作品から除外されていた多くの素描を調査し、そのなかに、ヤコポの素描とみなし得る約 10 点の作品が存在することを指摘できると考え、英文論文『ウフィツィ美術館に所蔵される「ティントレット工房」素描について』(下記論文の3番)を公刊した。この論文のなかでは、ウフィツィ美術館のティントレット派素描作品に関する質的判断が、1944年のティーツェ夫妻のカタログの判断によって過度に強く固定されてきたことを指摘し、近年の諸研究をふまえることで、かなり大幅な修正を加えられる可能性があることを示した。

3 やはりウフィツィ美術館の作品グループを対象に、ヤコポの息子ドメニコ・ティントレットの人物習作素描の編年的な整理を試み、英文論文『ウフィツィ美術館に所蔵されるドメニコ・ティントレットの素描』(下記論文の1)を公刊した。ドメニコの人物習作には、いまだ確立した編年的な指標が存在せず、筆者の試みはまったく初めてのものといえる。ティーツェ夫妻によるドメニコ素描のカタログはきわめて不完全なものであり、筆者は本論文のなかで大幅な修正を主張した。

筆者は、以上のような知見を、論文公刊ごとに、同じ研究分野に関心をもつ海外の研究者や美術館関係者に送付するようになってきた。その結果、筆者の知見に対して肯定的な見解をいく人かの重要な研究者たちから私信として得ている(パリ高等実習院教授ミシェル・オックマン、ウーディネ大学名誉教授ステファニア・マゾン、ボストン美術館学芸員フレデリック・イルチマンら)。大英博物館のオンライン・カタログにおいては、関連するティントレット素描作品の項目のなかで、すでに筆者の論文の一部が関連文献として引用されている。また、ウフィツィ美術館において現在構築中の作品データベースにも、筆者の見解を反映させるとの意志表示があった(同美術館版画素描部長マルツィア・ファイエッティ氏より)。

ティントレット派素描の所蔵先が多くの国・都市にわたるため、残念ながら今回の研究期間中にすべての作品を実見調査することはできなかった。今後の課題として、特にドイツに所蔵される諸作品を調査し、カタログを補完していく必要を感じている。また、今回の研究期間中に公刊を間に合わせることができなかったトピックとして、ドメニコ・ティントレットの油彩素描に関する論考があり、これについては 2014 年度内に英文

論文を発表したいと考えている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

1 Michiaki Koshikawa, "Drawings by Domenico Tintoretto in the Uffizi: Notes for a Catalogue Update," *Aspects of Problems in Western Art History* (東京芸術大学西洋美術史研究室紀要) vol. 11, (2013), pp. 29-37 (査読なし)

2 越川 倫明 「《燃え木を吹く少年》をめぐって エル・グレコと同時代ヴェネツィア絵画」、『エル・グレコ再考 1541-2014年：研究の現状と諸問題』(国際シンポジウム議事録)所収、エル・グレコ シンポジウム事務局(早稲田大学文学学術院 大高保二郎研究室)、2013.6, pp. 29-34 (査読なし)

3 Michiaki Koshikawa, "'Tintoretto Workshop' Drawings in the Uffizi: A Revision of Attributions," *Aspects of Problems in Western Art History* (東京芸術大学西洋美術史研究室紀要) vol. 10, (2012), pp. 27-37 (査読なし)

4 Michiaki Koshikawa, "Drawings after the 'Atlas' Statuette by Jacopo Tintoretto and His Workshop," *Aspects of Problems in Western Art History* (東京芸術大学西洋美術史研究室紀要) vol. 9, (2011), pp. 19-24 (査読なし)

5 越川 倫明 「エル・グレコ初期作品の研究現状 《モデナ三連祭壇画》と新出の《キリストの洗礼》を中心に」、『長崎県美術館研究紀要』、No. 4 (2011.3), pp. 51-64 (査読なし)

6 Michiaki Koshikawa, "The Current State of Research of El Greco's Early Works: *The Modena Triptych* and the Newly-discovered *Baptism of Christ*" (上記論文5の英文版) *Bulletin of Nagasaki Prefectural Art Museum* (『長崎県美術館研究紀要』) No. 4 (2011.3), pp. (31)-(41) (査読なし)

[学会発表](計3件)

1 越川 倫明 「ミケランジェロとシステーナ礼拝堂天井画」、2013年10月25日、公益財団法人鹿島美術財団、東京美術講演会における招待講演

2 越川 倫明「《燃え木を吹く少年》をめぐって エル・グレコと同時代ヴェネツィア絵画」、「没後 400 年記念シンポジウム エル・グレコ再考 1541 2014 年：研究の現状と諸問題」、早稲田大学美術史学会主催、早稲田大学大隈小講堂、2013.1.21

3 越川 倫明「エル・グレコの初期作品 最近の研究事情」、長崎県美術館開館 5 周年記念フォーラム「エル・グレコ：変貌の過去と現在」、長崎県美術館、2010.4.24

〔図書〕(計 5 件)

1 遠山 公一、越川 倫明、足達 薫ほか『祭壇画の解体学』(遠山公一責任編集) ありな書房、2011.3、312p。(共著、担当箇所 pp. 265-296)

2 越川 倫明、ベット・タルヴァッキア、アウグスト・ジェンティーリほか『ルネサンスのエロティック美術』、東京藝術大学出版会、2011.3、201p。(共著、担当箇所 pp. 141-161)

3 フェルナンド・マリアス、川瀬 佑介、越川 倫明ほか『エル・グレコ展』カタログ、国立国際美術館 / 東京都美術館(発行: NHK、NHK プロモーション、朝日新聞社) 2012.10、292p、作品解説 6 点を分担執筆

4 ピーナ・ラジョニエーリ、ポール・バロルスキー、川瀬 佑介、越川 倫明、深田 麻里亜ほか『システーナ礼拝堂 500 年祭記念ミケランジェロ展 天才の軌跡』カタログ、福井県立美術館 / 国立西洋美術館(発行: TBS テレビ)、2013.6、214p、作品解説 2 点の分担執筆、同 10 点の監修

5 越川 倫明、松浦 弘明ほか『システーナ礼拝堂を読む』、河出書房新社、2013.9、274p。(共著、担当箇所 pp. 7-29, 105-156)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

取得状況 (計 0 件)

〔その他〕

1 森田 義之、越川 倫明ほか、共訳：ジョルジョ・ヴァザーリ『美術家列伝』第一巻、中央公論美術出版、2014.2、426p.

2 越川 倫明、佐藤 直樹ほか、共訳：アントニー・グリフィス『西洋版画の歴史と技法』、中央公論美術出版、2013.8、180p.

3 越川 倫明、小林 亜起子ほか、共訳：ミ

シェル・フイエ『イタリア美術』(白水社文庫クセジュ) 白水社、2012.9、173p.

4 越川 倫明 訳：マルツィア・ファイエッティ「アゴスティーノ・カラッチの『好色で破廉恥な』版画」、『ルネサンスのエロティック美術』所収、東京藝術大学出版会、2011.3、pp. 163-198

5 越川 倫明、小林 亜起子、岡坂 桜子、共訳：ダニエル・アラス『ディテール 近寄って見る絵画史のために』より、「序」、*Aspects of Problems in Western Art History* (東京芸術大学西洋美術史研究室紀要) vol. 9, (2011), pp. 121-131

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

越川 倫明 (KOSHIKAWA, Michiaki)
東京芸術大学・美術学部・教授
研究者番号：6 0 1 7 8 2 5 9

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：